

アンケートから見える子どもたちの成長と成果

- ・ 学校生活への肯定的な態度：
多くの児童が学校を「たのしい」と感じており、保護者も子どもが楽しく通学していると捉えています。
- ・ ICT 活用の定着：
授業においてタブレット端末を用いて考えをまとめたり、比較したりする活動がスムーズに行われており、学力向上への寄与が期待されています。
- ・ 表現力と粘り強さの向上：
授業や活動を通じて、自分の考えを伝える表現力や、目標を持って粘り強く学習に取り組む姿勢が育っていると保護者から評価されています。
- ・ 他者への思いやりと協力：
友達と協力して学ぶことを楽しいと感じ、困っている友達を助けるといった、自他を尊重する態度が見られます。
- ・ 学習内容の理解：
多くの児童が学校での勉強を「よくわかる」「まあまあわかる」と回答しており、基礎的な学習内容の定着が進んでいます。

次年度への課題

- ・ 家庭学習習慣の確立：
児童・保護者双方の回答から、自主学習の習慣化や学習時間の確保に課題があり、特に家庭での学習習慣が「ついていない」と感じる層が一定数存在します。
- ・ デジタルデバイスの使用管理：
ゲームや YouTube などの視聴時間が長時間（3時間以上など）に及ぶ傾向があり、家庭内でのルール作りや適切な利用の指導が求められています。
- ・ 家庭学習における ICT 活用の充実：
学校での ICT 活用は進んでいる一方で、家庭学習との連携や ICT を活かした家庭学習の充実については、保護者の評価が分かれています。
- ・ 自己肯定感と相談体制：
「自分にはよいところがある」と思えない児童や、困った時に先生に「あまり相談できない」と感じている児童へのきめ細かなサポートが必要です。
- ・ 読書習慣の定着：
学校以外の場で本を読んだり読み聞かせを聞いたりする機会が少ない児童がおり、読書への興味関心をさらに高める必要があります。

令和8年度に向けた改善の方向性

- 1 「学校・家庭・地域の連携」による学習習慣の定着：
学校での指導を家庭での自主学習に円滑につなげるため、ICT を活用した家庭学習課題の提示や、家庭での学習環境づくりの啓発を強化します。
- 2 情報モラル教育とメディアコントロールの推進：
デジタルデバイスの適切な利用について、児童が自律的に管理できるよう、情報モラル教育を計画的に実施し、家庭とも共通理解を図ります。
- 3 自己肯定感を高める「認め合い・励まし合い」の教育：
児童が自分の成長を実感できるよう、日常的に教職員も含めた、「認め合い・励まし合い」を充実させ、一人一人の良さを認め合う学級・学校づくりを深化させます。
- 4 多面的な相談窓口と信頼関係の構築：
児童が不安を感じた際に、いつでも誰にでも相談できる雰囲気づくりと、教職員による迅速な異変の把握、家庭との緊密な情報共有を徹底します。
- 5 多様な考えを尊重する「対話的な学び」の質的向上：
自分の考えを深め、新たな気づきを得られるような話し合い活動をさらに推進し、学ぶ楽しさを実感できる授業改善を継続します。

令和8年度も、若佐小学校が子どもたちにとって「安心できる居場所」であり、保護者・地域の皆様から「信頼される学校」であるよう、着実に歩みを進めてまいります。引き続き、皆様の変わらぬお力添えをお願い申し上げます。